

ザ・シチズンズ・カレッジ 共催講座

9月13日 銀座フェニックスプラザ

ドキュメンタリー

「銀座裏通りの職人たち」製作秘話

世界に発信「銀座の職商人」たち

お二人は中学校以来の友人である。映画監督の鈴木勉さんは現在、映画「God's NINA details……銀座裏通りの職人たち」の製作を進めている。その監督にあたる渡辺新さんは、銀座で87年続くテーラー・壹番館洋服店の3代目店主。銀座の若手経営者のリーダーの一人でもある。

鈴木 この映画を撮るきっかけですが、私は港区の育ちで、大規模都市開発によってとうとう実家がなくなることになりました。それを知ったとき、変わりゆく東京の街やそこで生きていく人を撮りたいと思っていたのです。ちょうど、隣の渡辺くんが本を出したのでお祝いに集まった。柔道部だった彼の文才には期待してなかったのですが、銀座で長く商いをする先輩たちのインタビューがめっちゃくちゃ面白い。翌日電話をして「これを映画にしたい」と言っていました。彼も「ぜひ進めて欲しい」と、始まったのが2015年の春でした。

渡辺 銀座には通り会や町会などがたくさんありますが、それらを束ね銀座全体の意思決定をする、全銀座会という組織が2001年にできました。ある日、遠藤会長から、若手経営者の会・銀美会ぎんみの会長（当時）だった私が呼ばれて、「銀座のソフトの部



渡辺氏



鈴木氏

講師

鈴木 勉

1965年生まれ。映画監督。銀座を支える職人たちの技と街の魅力を世界に発信するドキュメンタリー映画を製作中。

渡辺 新

1966年生まれ。壹番館洋服店店主。著書『銀座資本論 21世紀の幸福な商売とは何か？』

分の今後や問題点を、若手で研究してほしい」と言われました。そこで20名くらいの銀座の先輩方を訪問し、「先輩、銀座の『商い』ってなんですか？」と質問し、お話を小冊子にまとめました。それがどんなビジネス書にもない深い話で、冊子発行後もまだまだ聞きたい。いっそライフワークにしよう」と取材を続け、店のお客様へ記事をお届けしていたら、出版社の友人が「本にしよう」と言ってくれ、それを読んだ勉ちゃんが映画にしようと言ってくれたわけです。

鈴木 ぼくらの世代は、銀座で服を買う、銀座で飲むっていうと、ちょっと敷居が高く感じていました。でも、裏通りで何代も続く老舗のご主人の話を読んで、こんなに下町っぽい街なのか、この歳になるまで銀座の魅力を全然知らなかった、店主の技やプライドに触れたいと素直に思いました。

渡辺 銀座の店は、店主が職人であり接客もする「職商人」で、お客様によって鍛えられます。お客様が銀座にふさわしくないと感じる店は自然淘汰されてきました。逆に気に入れば、行きつけの店として何十年もご愛顧くださいます。先日うちの店に、60年前にお祖父さんが着てた服を直してほしいというお客様が来店されました。

鈴木 すきやばし次郎の店主・小野二郎さんを描いた映画『二郎は鮨の夢を見る』が、日本の職人技を世界に伝えた意義は素晴らしいのですが、銀座というの街との関わりは描かれていませんでした。今回の映画では、いずれも日本を代表する実力を持つ、仕立て屋、寿司屋、和菓子屋、バーの4軒を軸に、銀座の魅力を描きます。

渡辺 近年表通りに海外ブランドが並んで雰囲気は明るいのですが、少し空っぽぽくないですか（笑）。本田宗一郎さんが昭和40年に「国際的とは人の真似をしないことだ」と言ったと知ってすごい人だなと。銀座にしかない商品やサービスを磨いていかないと、よくある街になってしまいます。今は海外の一流商品が買える街のイメージですが、今度のオリンピック後の50年を考えると、日本中の素晴らしいものを世界に発信する街であるべきと考えます。

鈴木 ある陶芸作家の方が「未熟を個性と勘違いしてはいけない。商品として人を満足させる水準になってからの個性」と言っていました。銀座はその水準に達した店が多いので、これから強く個性を打ち出せる位置にあると思います。先人が残した銀座の宝をさらに磨いて、世界に輝ききつかけに、映画がなればと思います。

*

この対談の数日後から撮影が始まった。2018年2月完成披露予定。資金提供・サポーターは引き続き募集中で、詳しくは、<https://www.ginzaiga.jp/>から。